

文学部

I	教育の水準	教育 1-2
II	質の向上度	教育 1-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- ファカルティ・ディロップメント（FD）でのアンケート結果を踏まえ、文学部コアカリキュラム等の共通科目における段階的な改善や、テーマ毎の教科書の作成、電子教材を活用した授業の質向上、「体験型」、「学生参画型」学習の促進等、授業や教育課程に係る改善に取り組んでいる。
- 専門科目や学芸員科目の充実のため、博物館学芸員・公設研究機関研究者・地方自治体技師等の実務経験を有する教員を配置している。また、国際化に関して学生が多様な視点を獲得するため、4名の2年任期の外国人講師を英語、ドイツ語、フランス語、中国語の授業に配置している。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学生が展示・研究・教育普及・広報といった美術館の諸活動を実践的に学びながら、大学で得た知識を地域社会に還元することを目的に、美学美術史研究室においてミュージアムマネジメント学ぶ学生による「AQA プロジェクト」を立ち上げ、アジア各国と地元福岡の若手作家を取り上げた企画展を開催するなど、活動に取り組んでいる。
- 学部独自の学生相談室を設置し、外部の専門家による修学・就職等の相談を実施しているほか、卒業生の寄附により、優秀な学生を経済面で支援するために、平成27年度から小辻梅子成績優秀者奨学金を設けている。また、留学生担当教員を配置し、留学生の支援に努めている。

以上の状況等及び文学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成22年度から平成26年度における教員免許取得者は平均40.6名、平成22年度から平成27年度における社会調査士の資格認定者は平均12.5名となっている。
- 平成25年度に実施した学習の達成度・満足度に関する学生へのアンケートでは、「能力について向上したか」という設問に対し、自分の専門分野に対する深い知識や関心、分析的に考察する能力、記録、資料、報告書等の作成能力、人間や文化についての関心や理解等について、9割程度が肯定的な回答をしている。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成22年度から平成26年度において、大学院への進学率は平均15.1%、就職率は平均88.7%となっている。
- 平成25年度に実施した就職先・進学先等の関係者への意見聴取では、5段階評価で、「仕事に対する使命感や責任感」は平均3.87、「期待通りの活躍」は平均3.77、「実務能力」は平均3.70、「知識や情報を集めて自分の考えを導き出す能力」は平均3.69、「幅広い教養・知識」は平均3.68、「専門分野の知識」は平均3.53となっている。

以上の状況等及び文学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。